

# 図書館へ行こう！

本を読んで、大学へ行こう

中学生も必見！ 今年のセンター試験から

(大学入試センター試験国語第一問)

小林傳司「科学コミュニケーション」

出典：2002年4月刊『科学論の現在』第5章より

近代科学が成立した16世紀から現代にかけて、社会における科学の位置づけが変遷していった様子を述べた文章です。4000字を超す長文で読みごたえがあり、回答の選択肢にも難解なところがありました。評論問題をスムーズに解くために、日ごろから哲学や歴史の基礎的知識を身に付けておきたいものです。

学院図書館には小林傳司氏の著書はありませんが、偶然同じタイトルの図書を所蔵していました。⇒

2011年に出版された新書です。これを機にいろいろな新書を手にとってみましょう。



(大学入試センター試験国語第二問) 野上弥生子『秋の一日』

野上弥生子 1885.05.06～1985.03.30 大分県生まれ フンドーキン醤油の創業家に生まれたヤエ(のちの弥生子)は14歳で上京、明治女学校に入学します。結婚後『ホトギス』で作家デビューして以降、一生現役の作家として活躍しました。法政大学女子高等学校名誉校長を務め、「女性である前にまず人間であれ」の言葉を残しました。出題の『秋の一日』は、1912年に発表された短編です。

参考：最新国語便覧(浜島書店)、現代人物事典(朝日新聞社 1977)、世界人名事典日本版(東京堂出版 1990)

学院図書館には、野上弥生子の著作として『海神丸』が収録された『百年文庫 74 船』『女流作家シリーズ野上弥生子集』や、芸術と権力との確執を描いた『秀吉と利休』があります。



読書と同じように、日頃から新聞を読む習慣をつけることも大切です。時間がない人は、コラムの欄だけでも目を通してみてはいかがでしょうか。今日は、先日の毎日新聞「余録」を紹介します。1月8日 毎日新聞

渡辺和子さんの著書は、学院図書館でいつも貸出ランキング上位に入っています。在学中に一度はその著書を手にとってほしい作家の一人です。

時間の使い方は、そのまま「いのち」の使い方になる。『置かれた場所で咲きなさい』より

